

秋田県農業信用基金協会

1.秋田県の気候・風土・食文化などについて

秋田県は、東北地方の北西部に位置し、東京のほぼ真北約450kmの日本海側にあり、北緯40度線が横断しており、北京、マドリード、ニューヨークなどとほぼ同じ緯度上に位置しています。

また、県土の総面積は11,638km²で、南北181km、東西111kmに及び県全体の約7割を森林が占めています。面積は全国第6位の広さです。

県の西部は日本海に面し、東部の県境は南北に奥羽山脈が連なっています。このため気候は、

冬は雪が多く、夏は晴天の多い典型的な日本海型気候となっています。

食の分野では、豊富な米の収穫量と寒冷降雪、良質な水といった好条件から「清酒」「味噌」「しょっつる」「漬物」などの発酵食品文化を生み出しました。



2.秋田県の農業について

平成30年における秋田県の農業産出額は1,843億円で、全国における順位は19位となっています。

農業産出額の内訳は、米が56.2%、畜産が19.5%、野菜が16.7%、果樹が3.9%となっています。

秋田県は、水稲の生産力が極めて高く、作付面積・収穫量とも全国の上位にあります。特に、ブランド米「あきたこまち」の栽培が盛んなほか、酒どころ秋田として酒米の生産にも力を注いでいます。

また、新たなブランド米を目指して開発した新品種「サキホコレ」は、2年後の令和4年から本格的な作付が始まります。つやがあり粒が大きく粘りや甘み強いことなどが特徴となっています。

青果物については、秋田の気候を生かした高品質なトマト、きゅうり、メロン、すいかなどの栽培が盛んです。現在、アスパラガス、ほうれん草、ねぎの3品目に加え、シイタケ販売三冠王やえだまめ出荷量日本一を達成するなど産地育成に力を入れています。

さらに花卉においては、冷涼な特性を生かした高品質の花弁生産に取り組む若い担い手が年々増加しており、産地の拡大が期待されています。

畜産においては、肉用牛のブランド化や養豚の大規模化と高品質化や、全国的に有名な「比内地鶏」の販路開拓に取り組んでいるところです。

秋田米は日本の食卓を応援しています。

秋田のおいしさとやさしさが詰まっています。

インスタマガジン 公開中!!

#秋田産米ゴッレ

スペシャルサイトはこちら

QRコード

JAグループ秋田 JA全農あきた

これまでも これからも 秋田米

美人唄の秋の米 あきたこまち

3.秋田県農業信用基金協会の概要

当協会は、理事9名(うち常勤1名)及び監事3名、職員11名(うち正職員9名、臨時職員2名)により2部制(総務部・業務部)で業務運営に当たっています。



秋田県協会の役職員の皆さん

4.秋田県農業信用基金協会の活動

当協会の保証残高は平成16年度をピークに減少の一途をたどり、令和元年度末にはピーク時の約半分までに落ち込みました。民間保証機関との競合もあり、住宅ローンを中心とした生活関連資金の落ち込みが保証残高低下の主な要因となっています。

このため、「協会保証の使い易さ」を第一に考え、出向く体制を再構築し、インターネットローン申込みシステムの導入や民間保証機関と劣後しない保証料率の設定などを実施しました。

また、基金協会が利用者サイドから身近な存在であるべきと考え、本県に140年以上も続く第143回秋田県種苗交換会(令和2年10月30日～11月3日)の会場にブースを設け、保証制度から利用促進に至るまでの推進活動を精力的に行いました。

このような取組みとともに、日頃からの地道な推進活動や、利用者のニーズを常に意識した真摯な対応を心掛け“未来を育む確かな保証”をより確かなものにしたと考えています。

